

国際化学肥料ニュース（2013年11月）

肥料業界の2013年11月動態

- * カナダ Potash Corp の発表データによれば、今年1～4月の塩化加里生産量が大幅に増えたが、5月から急速に減少し、8月生産量が7月より12%減、昨年同期より5%減であった。輸出については、4月以降、輸出が振るわず、8月輸出量が7月より48%減、昨年同期より16%であった。

生産調整の結果、8月末の在庫量が7月末より16.9万トン減少したが、過去5年間の平均値より31%も増えた。

- * アメリカのりん安（MAPとDAP）需要が旺盛で、8月国内販売量が7月より7%増、昨年同期より0.5%増。輸出も順調で、8月輸出量が7月より22%増、昨年同期より38%増であった。なお、生産強化のため、8月末のりん安在庫量が7月末より7.2万トン増、過去5年間平均より40%増であった。

- * ベトナム政府のデータによれば、今年1～10月の化学肥料輸入量381万トン、その中に尿素輸入量が68.4万トン。10月だけ化学肥料輸入45万トン、その中尿素輸入量13.8万トン、昨年同期より98%増であった。ベトナム国産尿素が国内需要量をカバーすることができるが、市場が廉価の中国尿素を求めて、輸入量が増えた。また、国内の化学肥料生産と販売に不正行為が多く、1～10月だけで1183件を摘発し、50.5万ドル罰金を徴収した。

また、ベトナム「Economic Times」紙11月19日の報道によると、2013年国内化学肥料需要量約1030万トン、1～10月の国内生産量が約800万トン、その内訳が尿素220万トン、化成肥料370万トン、りん酸肥料（過りん酸石灰等）180万トン、DAP33万トン。加里肥料を除けば、窒素肥料とりん酸肥料、化成肥料は国内需要を満足することができる。

一方、中国からの廉価輸入尿素を対抗するため、ベトナム Ca Mau 尿素工場は生産コストを下げ、販売ルートの見直し等を通して、販売価格を引き下げることにより工場所在地のメコンデルターの窒素肥料市場を確実に抑えたとも報道した。

- * エジプト天然ガス不足で、アンモニア/尿素工場への供給量が削減されたため、Alexfert と Mopco が尿素生産ラインを止めて、OCI の稼働率も 50%に引き下げた。また、エジプト政府は尿素メーカーに対して、今年年内に国内供給量を 5.8 万トン/月から 7.2 万トン/月に増加することを要請した。従って、11 月からエジプト尿素の輸出が全面停止した。12 月に輸出が再開できるか否かは不明である。
- * 10 月末の中国尿素輸出非需要期の終了に伴い、尿素の国際価格がじりじり値上がりした。最安値の 9 月上旬に比べて、約 30 ドル/トンの上昇である。
また、インド IPL が 11 月 11 日に締め切った最新の尿素入札には、最低入札価格が CFR 339.33 ドル/トンで、10 月 18 日締め切ったインド STC の入札より 30 ドル/トンも高くなった。今回の IPL 入札には計 170 万トン尿素を応札したが、予定価格より高いため、IPL がその中の 65 万トン尿素しか契約しなかった。
- * ロシア 9 月の DAP 輸出量が 5.8 万トン、その内訳は、タイに 2.7 万トン、エストニアに 1.3 万トントン。今年 1~9 月の DAP 輸出量 73.5 万トン、去年同期より 19%減。最大の輸出先はタイ（15 万トン）である。
- * ベラルーシ加里の発表によれば、Ularkali が BPC 脱退後、ベラルーシの塩化加里輸出量が 9 月 35 万トン、10 月 40 万トンであった。
また、11 月 14 日、ベラルーシ経済省次官は議会に 2014 年の塩化加里輸出量が 700 万トンと計画するが、輸出価格(FOB)が 300 ドル/トンに下落する可能性もあると証言した。
- * アメリカ肥料研究所 (TFI) が公表したデータによれば、アメリカ 9 月の塩化加里輸入量 79.3 万トン、その 96%がカナダから、残りの 2.55 万トンはイスラエルからの輸入である。
- * ロシア富豪 Suleiman Kerimov 氏が所有していた Uralkali の 21.5%株式の売却を表明した後、11 月 25 日、ベラルーシ加里 (Belaruskali) の第 1 副総裁はベラルーシ加里が Uralkali と再び協力することになることを期待すると表明した。
これを受け、ロシア政府副総理 Dvorkovich 氏も Uralkali と Belaruskali が塩化加里共同販売同盟を再建だろうという談話を発表した。

大手各社の営業業績

- * Ularkali が BPC から脱退した後遺症で、加里肥料大手メーカーの収益が落ちてきた。最近公表した各メーカーの 2013 年第 3 四半期の業務報告によれば、イスラエル ICL

社の売上高が 26.4%減の 7.8 億ドル、ドイツ K+S も粗利が 10.7%減の 8.177 億ユーロ、アメリカ Mosaics 社は粗利が 70%減の 1.24 億ドルに軒並み悪化した。なお、第 3 四半期の塩化加里平均 FOB 価格は 342 ドル/トンであった。

- * ロシア Uralchem 社は今年 1~9 月の業務報告を公表した。1~9 月の化学肥料生産量が 449 万トン、昨年同期より 2%増。その内訳は硝安とその関連製品が 203 万トン(7%増)、アンモニア 56.26 万トン(3%減)、尿素 85.14 万トン(1%減)、りん安(MAP+DAP) 33.33 万トン(5%減)、NPK 化成肥料 46.84 万トン(1%増)であった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ブラジル Potash Corp の子会社 Potassio do Brasil 社(本社カナダトロント)はアマゾン流域に 2ヶ所の加里鉱山を新たに発見したと発表した。これらの加里鉱山はアマゾンの Remanso 地域と Itacoatiara 地域にあり、塩化加里含有量が 33~40%に達する。開発すれば、ブラジル国内の加里肥料需要量を満たすことができるという。

また、同社はすでに Autazes 加里鉱山の探鉱を完了し、2014 年末までに当該鉱山の開発許可を得るように申請手続を進んでいる。許可されれば、年間 200 万トン塩化加里の生産能力を有する生産拠点として 2018 年に完成する予定である。

上記の 3ヶ所加里鉱山はすべてアマゾン流域に位置して、需要地に近く、生産と輸送コストを大幅に減らすことができる。2012 年ブラジルは 600 万トン塩化加里を輸入して、国内加里肥料需要量約 90%を占める。

- * ブラジルヴァーレ社はアルゼンチンに開発中の加里鉱山について、アルゼンチン政府が契約の条文解釈に異論があり、互いに不信に陥ったため、アルゼンチンにある Rio Colorado 加里鉱山開発プロジェクトから完全に撤退したと発表した。

その他

- * 今年 1~9 月パキスタンの化学肥料販売高が 1450.7 億ルピー、昨年同期より 24%増、粗利が 32%増の 654.8 億ルピー、純利益が 63%増の 279.3 億ルピーであった。利益上昇の原因は、販売量の増加、価格の上昇、政府補助金の増加に由来するものである。

- * 11 月 21 日、ロシア最高検察長はベラルーシ政府に 8 月逮捕された Uralkali の CEO Vladislav Baumgertner 氏がロシアに引渡されると発表した。

Vladislav Baumgertner 氏は今年 8 月にベラルーシ総理 Mikhail Myasnikovich の招待でベラルーシを訪問し、帰国する際に空港で逮捕された。罪は Uralkali が BPC から

脱退する際に職権乱用である。この逮捕はベラルーシ政府が Uralkali の脱退に対する報復とみられる。

一方、ベラルーシ政府は Uralkali の最大株主 Suleiman Kerimov 氏がこの脱退劇の黒幕であるとして、Kerimov 氏が持つ Uralkali の 21.75%株式を他人に譲渡するよう強く要請した。11月中旬、ロシア富豪 Mikhail Prokhorov 氏傘下の Onexim グループは1株200ルーブル、総額39億ドルで Kerimov 氏から Uralkali の 21.75%株式をすべて購入すると発表した。